

6. 捕獲手法と評価

本実証事業は平成 26 年度から実施し、本年度はその 2 年目に当たる。この 2 年間に行った捕獲に関する実証から各手法の長所と短所及び留意点を表 6.1 に取りまとめた。

各モデル地域の結果から、銃猟やわなを利用する場合へイキューブによる誘引を行うことで、捕獲効率は高まるものと考えられた。しかし、セルフロックスタンションや巾着式網箱わな等、目視できるわなは、相当な馴化期間を要することがわかった。

銃器による捕獲については、誘引作業は良好であっても失中することもあり、射手の狙撃技術に大きく左右される。地域によって、得意とする捕獲方法（流し猟やイヌ等を用いた巻き狩り等）があり、均一な手法ではうまくいかない可能性が高くなると思われる。そのため、技術力が明確でない地元狩猟者や団体に一任することは避けるべきである。捕獲技術が客観的に評価できるレベルの従事者に依頼することが重要である。また、スレジカをつくらないため、3 頭以上の群れは発砲をさけることとしてため、現状のシカ密度を低下させるまでの捕獲には長期間を要すると考えられる。銃器のみに頼らず、他のわなを併用しながら継続的な捕獲を実施することが効率的と考えられる。

一方、高い捕獲技術者がいても、シカの少ないところでは捕獲成果は上がらないのは当然である。シカは地域により移動するもの、移動しないもの、群れのサイズも大きく異なる。そのため、各地域に応じたシカの行動特性を考慮した時期・場所・方法の選定が重要である。

この 2 年間の実証事業から捕獲手法選択の流れの例は図 6.1 のとおりに示される。ただし、この流れ図は一例であり、実際はその状況等によって異なる。

表 6.1 各手法の長所と短所及び留意点

手法	実施地域	長所	短所	留意点
誘引	大杉谷 三嶺 祖母傾	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 銃猟及びわなによる捕獲を行う際には餌による誘引を行うことで捕獲効率は高めることができる。 ▶ シカの捕獲効率をあげるため、餌付けにより任意地点に集めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ エサの種類によってイノシシやカモシカ等意図しない動物が誘引される。 ▶ 時期によって誘引のされやすさが異なる。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 場所に応じたエサの選択をする必要がある。 ▶ 継続的に餌が存在することが必要であるため、計画的な餌の補給体制が重要である。 ▶ 捕獲に際しては誘引状況を自動カメラなどでモニターする必要がある。 ▶ 遠くのシカを呼び集めるものではなく、近くで行動しているシカに立ち寄ってもらうというものなので、シカ密度が高い方が

手法	実施地域	長所	短所	留意点
				誘引効果は高い。
モバイルカ リング	大杉谷	<ul style="list-style-type: none"> ▶ シカの利用頻度が高く、見通しやバックストップ(矢先の確認)が多くある林道では有効な手法である。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 尾根を通る林道や登山客が入る地域には向かない。 ▶ 射手において相当高度な射撃技術が必要であり、安易に採用できるものではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ シカの生息状況と射撃条件を十分考慮する。 ▶ 林道の封鎖や保安員の配置、各種許可申請・事前説明等の準備が必要である。
定点狙撃	大杉谷 祖母傾	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 射撃ポイントが限られている地域において有効な手法である。 ▶ 矢先を配慮した地点に誘引することにより、安全な捕獲が可能である。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ シカの出現まで定点において長時間待機する場合もあり、銃器が固定されることから、発砲機会は他の銃猟より少なくなる。 ▶ 射手において相当高度な射撃技術が必要であり、安易に採用できるものではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 留意事項は、モバイルリングと同様。
忍び猟	大杉谷 三嶺 祖母傾	<ul style="list-style-type: none"> ▶ アクセス困難地での捕獲手法として有効である。 ▶ 餌付けで誘引することで、シカの出没する位置を予測して行動ができる。 ▶ 誘引効果が高められた地点では、有効射程距離まで接近しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 射撃地点に到達するためや捕獲個体の処理に相応の体力と技量が必要である。 ▶ 射手において相当高度な射撃技術が必要であり、安易に採用できるものではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 実施地域の地形条件やシカの行動特性を十分把握する必要がある。
人勢子による巻き狩り	三嶺	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 餌付け地点に定着しないシカについて射撃機会を増やすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 射手と複数人の勢子が同一エリア内で行動するため、綿密な安全射撃体制をとる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 実施地域の地形条件やシカの行動特性を十分把握する必要がある。
くくりわな	大杉谷 祖母傾	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 入手や取扱いが容易であり最も一般 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ カモシカの生息する地域では、錯誤捕 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ わなの設置箇所の選定については、一

手法	実施地域	長所	短所	留意点
		<p>的な手法である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 昼夜を問わず捕獲が可能な手法である。 ▶ 餌の誘引により捕獲効率が高められる可能性がある。 ▶ 複数個設置ができるため条件がよければ、同一場所で複数頭捕獲できる場合もある。 	<p>獲の可能性があるため、設置が困難である。</p>	<p>定レベルの技能と経験が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ カモシカやツキノワグマ等の錯誤捕獲の可能性のある動物の生息状況を把握する必要がある。
首用くくりわな	大杉谷	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ヘイキューブに誘引されるメスジカを選択的に捕獲する手法として有効な方法と考えられる。 ▶ 馴化には一定時間かかるが、誘引が十分ならば通常のくくりわなよりも確実に捕獲することが可能である。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ オスは角が邪魔になり掛からない構造であるが、オスでも幼獣はかかる場合もある。 ▶ カモシカの生息地域では、錯誤捕獲の可能性はある。 	<p>試作品の段階であり、製品化はされていないが、実証結果から活用の可能性が期待される。</p>
ICT 機器付き囲いわな	三嶺 祖母傾	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 複数個体の捕獲可能である。 ▶ わなが稼働し、落とし戸が閉まったことを離れた地点で確認することができるため、目視確認の労力を低減することができる。 ▶ 複数のわなに設置することにより同時に監視が可能となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 囲いわなは人力で運搬・架設ができるとはいえ、設置箇所との選定はシカの生息状況を鑑み慎重に行う必要がある。 ▶ 携帯電話網を用いたICT機器の利用も場合によっては検討されるが、山間地での利用に適さない場合も多く、コストもかかることから、選択には慎重を要する。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 複数個体を想定しているため、止め刺しについては、十分な安全対策のもと実施する必要がある。 ▶ 捕獲予定地周辺にアクセス容易な平坦地があれば、強度のある大型囲い柵も検討の余地はある ▶ 囲いわなに関連したICT機器として、本事業での実施はないが、AI ゲート

手法	実施地域	長所	短所	留意点
				(商品名:かぞえもん Air (株式会社一成)) や、檻の遠隔監視・操作装置(商品名:まる三重ホカクン(株式会社アイエスエー))がある。これらは複数個体を逃さず捕獲することができ、携帯電波の到達範囲による制限やコスト面での問題はあるものの、それらを克服できる場合は更なる効果を期待できる。
セルフロックスタンション	三嶺 祖母傾	▶ メス(角がない)を選択的に保定することができる。	▶ 誘引・馴化には相当の期間が必要とされ、当該事業では捕獲には至らなかった。	
巾着式網箱わな	三嶺 祖母傾	▶ 軽量で運搬は容易である。	▶ わなに立ち入るための誘引・馴化期間には相当の期間が必要とされ、当該事業では捕獲には至らなかった。 ▶ 冬季はトリガー部が凍結し動作が不安定となる場合がある。	

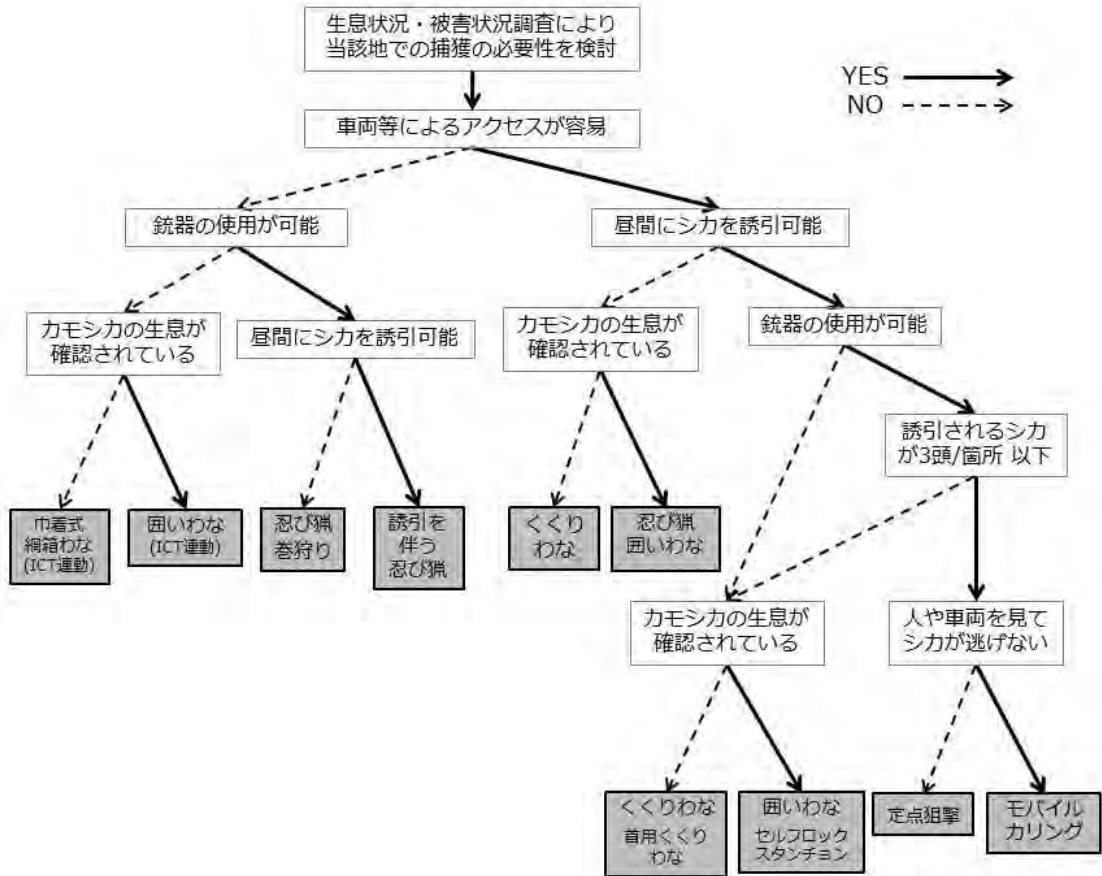


図 6.1 捕獲手法の選択の流れの例